

R5 (2023) 年 共通テスト本試 問4用 『散木奇歌集』



これは『散木奇歌集』の一節で、作者は本文と同じく源俊頼です。

やはた みかぐら 存続 準体法

人々あまた八幡の御神楽に参りたりけるに、
人々がたくさん、
石清水八幡宮における御神楽に参上していたころに、

べつたう くわうせい つりどの

こと果てて又の日、別当法印光清が堂の池の釣殿に
御神楽の催しが終わった翌日、
長官光清の御堂の池の釣殿に

人々みなみて遊びけるに、
人々が 並んで座って楽器を演奏していたころ、

係助詞 完了

「光清、連歌作ることなむ得たることとおぼゆる。
「(私) 光清は、(自分が) 連歌を作ること
習熟したと 思われる。」

自己願望

完了・存続

ただいま連歌付けばや」など申しゐたりけるに、
今すぐ 連歌を 詠み加えたい」
など申し上げ続けたので、

完了 準体法

かたのごとくとて申したりける、
(源俊重は) 「形式通りに」と思って(発句し) 申し上げた句は、

いを疑問

打消 推量

とししげ

釣殿の下には魚や すまざらむ 俊重
釣殿の 下には 魚が住まないのだろうか
いを疑問 打消 推量 とししげ 源俊重

光清しきりに案じけれども、え付けでやみにし
光清はひっきりなしに 思案したけれども、
続きを詠むことができないで終わってしまった

過去(已然形)

ことなど、帰りて語りしかば、
ことなどを、
帰ってから(俊重が父の俊頼に) 語ったところ、

試みにとて、
(俊頼は) 「試しに」と言つて(詠み加えた句は)、

うしづりの影 そいつに見えつつ 俊頼
釣殿の(屋根の重みを支えるための)梁、(つまり音だけ拾うと)
「うしづり(釣針)」の影が川底に(映つて) 見え続けていることよ 源俊頼